

# 東日本大震災から学ぶ保健師活動のあり方 被災地の市町村から



宮城県 東松島市保健福祉部健康推進課  
技術主任兼保健師 大内佳子



## 伝えたいこと

- 災害時に地域の公衆衛生活動を統括し、まとめるのは地元の保健師の役割である。しかし、外部からの支援が必要である。
- 災害時の保健師の役割は直接支援・調整・マネージメントの連動を通し新たな仕組みを作ることである。
- 被災した市町村間の情報交換の場が必要である。



## 発災以前の東松島市

東松島市は、東北の中心都市、仙台市から北東に約30kmの距離にあり、太平洋に面し、日本三景松島の一角を占める風光明媚なまちでした。

人口は、42,915人（国勢調査速報値）。主な産業は、海苔・牡蠣の養殖漁業と農業、仙台市と石巻の中間に位置し、サラリーマンのベッドタウンとしても、世帯数を増やしていました。



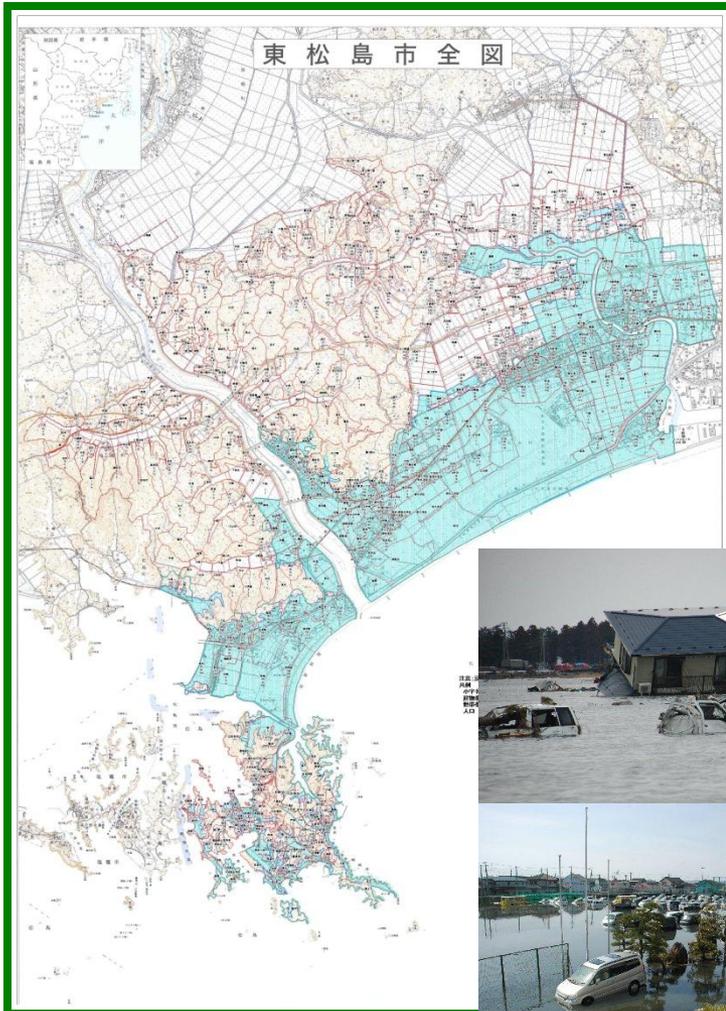


# 大津波による壊滅的な被害





# 浸水地域は市街地の65% 全国の被災市町村中最大



## 東松島市の被害状況

### ●人的被害

死者	971人 (9月6日現在)
行方不明者	94人 (うち認定死亡60人)
計	1,065人 (全住民の2.5%)

### ●家屋被害

全壊	約5,410棟
大規模半壊	約3,039棟
半壊	約2,391棟
一部損壊	約3,652棟
計	約14,492棟 (全世帯の約96%)

●流出車両 約11,000台

●避難者 (最大)

15,185人

●避難所 (最大)

86施設



# 直後から48時間の保健師活動

市保健師災害マニュアルに基づき一括配置で対応（保健師10人）

## 1) 超急性期の救護所機能

3/11: 夜間から災対本部を通じ避難所の体調急変者対応  
－夜間の避難所からの要請による緊急対応続出

3/12: 早朝低体温症、意識レベルの低い被災者対応  
緊急搬送車両に同乗し搬送補助  
近親者を亡くした被災者へのケア

## 2) 避難所機能

一般避難所以上福祉避難所未満のケース（乳児、感染症児童等）  
を受入

## 3) 地域での活動

避難所での救護活動

避難者数把握、避難所のアセスメント、ハイリスク者把握  
保健師2名、事務職1名のチームで活動



# 3日目から7日目の保健師活動

- 石巻圏合同救護本部から避難所巡回医療チームの確保（石巻赤十字病院）
- 石巻圏合同救護チームミーティング朝、夕参加
- 巡回診療結果から、要フォロー者個別支援
- 避難所リーダー、健康管理者（市民）との連携による避難所健康管理
- 陸上自衛隊、航空自衛隊本部、医療班の調整
- 浸水地区避難所への支援  
陸上自衛隊のへり、特殊車両に保健師同乗
- 市医師団による仮設診療所設置準備・診療介助準備
- 市災対本部各課に避難所の情報提供、支援依頼
- 全避難所を7日間で実態把握。全避難所に巡回救護チームを派遣し初回診療完了（全60カ所）

# 1週間後から 1か月の保健師活動

- 避難所巡回診療チームの訪問スケジュール管理、各避難所に日程周知  
（長期支援医療チームの固定化により）
- 市医療チームミーティング実施（毎朝）
- 各避難所要フォロー者の個別支援進捗管理システム化
- 各避難所巡回診療結果を一元管理
- 各マスコミ、県、支援団体対応
- 浸水地域健康支援調査企画
- 県外派遣保健師受け入れ（3/25）



# 震災後の現地保健師の役割と実際の活動

3/11 72時間 10日 40日 2か月 4か月 6か月

保健師  
の役割

直接支援

調整

マネージメント

関係者をつなぐ

判断する  
システムを動かす  
全体の統制

実際の  
活動

患者搬送  
初期巡回  
避難所ア  
セスメン  
ト

巡回診療

健康支援調査

仮設住宅支援

外部からのリソース

救護チーム、保健師チーム、  
事務職、PSW等



# 保健師の仕事と役割

**マネージメント (判断)**

1. 避難所救護活動

地域全体の健康管理、生活支援の  
内部、外部資源の活用  
日々変化する市民の健康課題、ニ  
ズへの対策検討  
保健師の疲労度

2. 健康支援調査  
(在宅者)

3. 仮設住宅支援

4. 心のケア

5. 復興期  
公衆衛生活動

市職員

**仕組み作り**

避難所・在宅・  
仮設  
みる・感じる・聴く  
介護・看護・  
救護

区長  
避難所健  
康管理  
リーダー  
自主防災  
組織

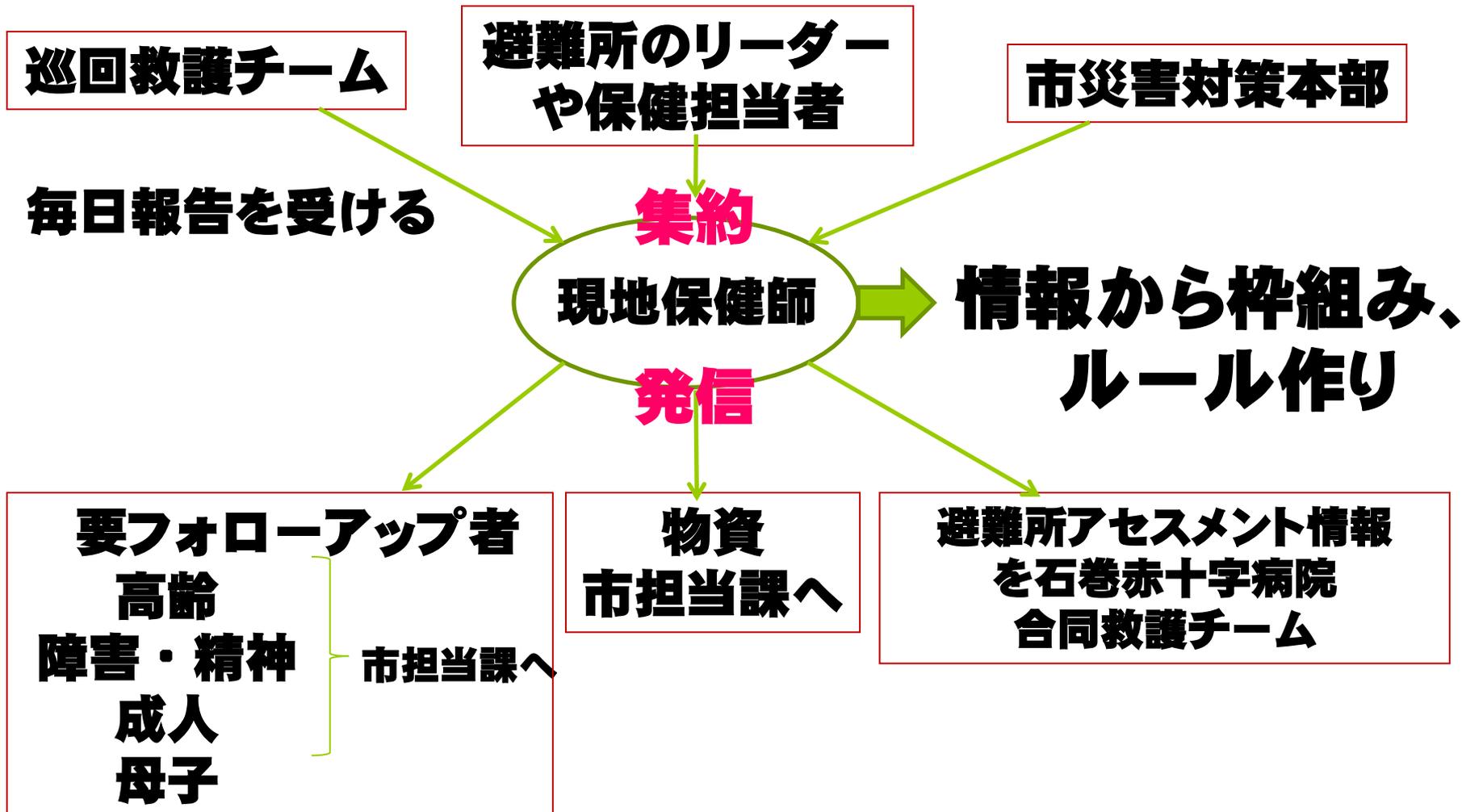
人・物 (調達)  
環境・情報  
市内関係機関  
派遣保健師  
救護チーム  
地元医師・薬剤師  
ボランティア

**調整  
(関係者)**

**直接支援  
(市民)**



# 情報の保健師への集約と発信





# 外部からの保健師支援

- 派遣保健師支援は短期のみならず、中、長期的に必要  
ただし、現場は混乱が今も継続中。  
派遣依頼目的の明確化、派遣保健師のコーディネートが鍵
- 今回、浸水地域健康支援調査を主に外部からの派遣保健師に依頼
  - 今だから考えられる派遣保健師に当時お願いしたかった支援
    - ・地元保健師の全体調整の補助（事業実施、企画）
    - ・派遣保健師のとりまとめとしての調整機能
- 山口県の保健師から学んだ派遣保健師のあるべき姿勢

# 災害時の県保健所と市の保健師連携を振り返って

タイムリーな情報共有、派遣保健師依頼に苦労した理由

県の状況:保健所が4日間水没、庁舎浸水によりデータ紛失

市の状況:24時間交替制で連続勤務、職場に連泊しての業務  
タイムリーな情報発信ができず

県、保健所の関係者来訪時に現状、現在の業務を派遣保健師要請を行うことで精いっぱい

# 平時の県保健所と市の保健師 連携を振り返って

専門、業務別担当者間の会議、連携以外にも市保健師活動全体について協議、相談できる関係を築きたい

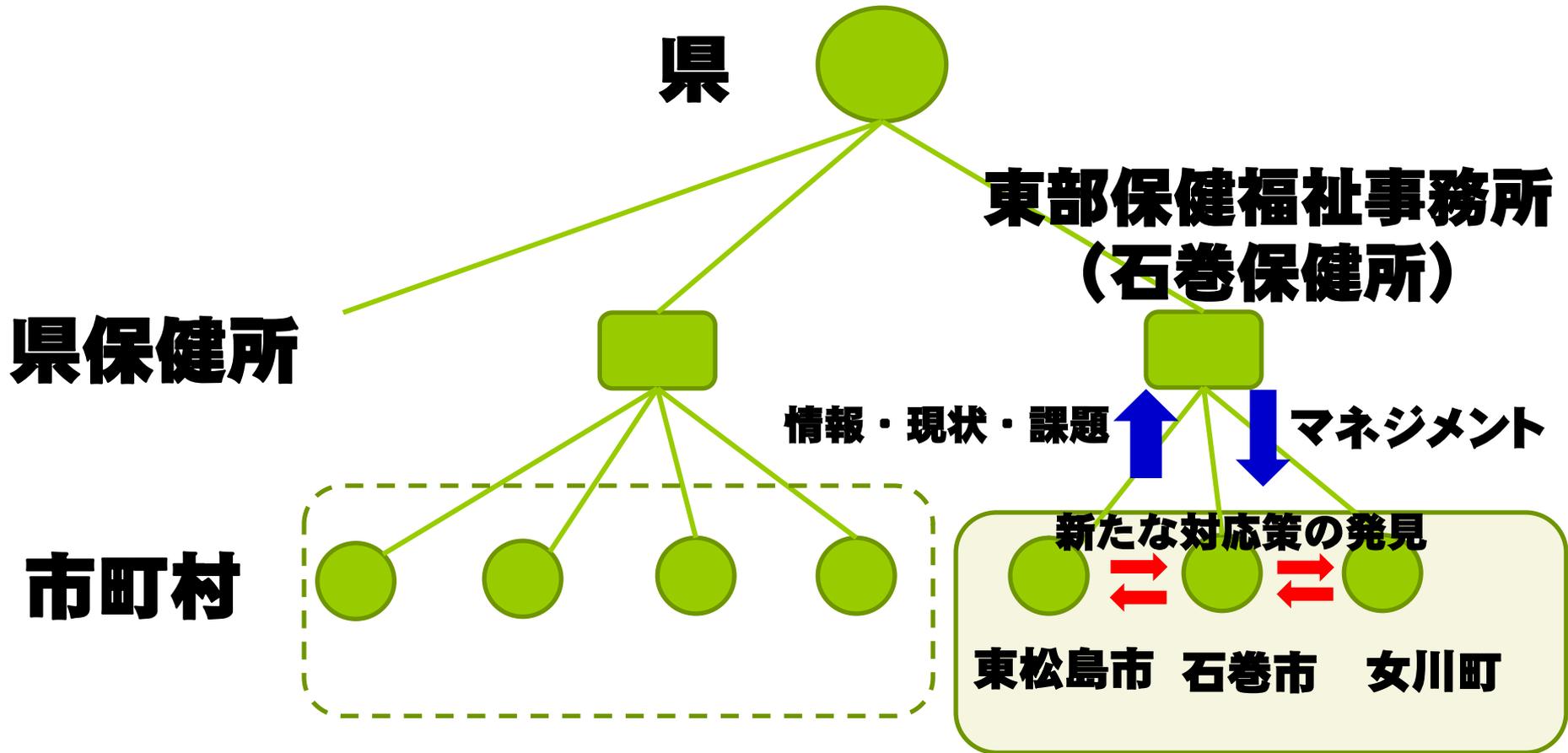
緊急時は地域を知り、顔の見える関係の保健所に頼りたい

- ・平時が災害時、緊急時のお互いの活動、連携の土台を築く
- ・県保健所、市の保健師間の情報共有の大切さ

保健師業務内容、保健師の体制、重点事業、取り組み、**災害マニュアル**等

- ・市側の保健師活動全体の情報発信をしていこう
- 事業企画等のポイントに県保健所保健師を交えて実施

# 提言:被災市町村間の情報交換会の活用



Face to Faceの**情報交換の場**

# 謝辞

保健師の派遣、御支援ありがとうございました。

宮城県、千葉県、愛知県名古屋市

山口県、東京都、栃木県小山市

埼玉県川越市、兵庫県、島根県、福岡県

宮城県涌谷町、美里町、松島町、大崎市